

1920年における流行性感冒と コレラの報道について — 『神戸又新日報』 による比較 —

文学部社会学専修3回生 沖本暁子



1. はじめに

- 本稿のテーマは、報道内容から感染症についてのイメージを明らかにすること。
- 調査のきっかけはコロナ禍においてテレビやSNSのニュースの影響力の大きさを実感したこと。

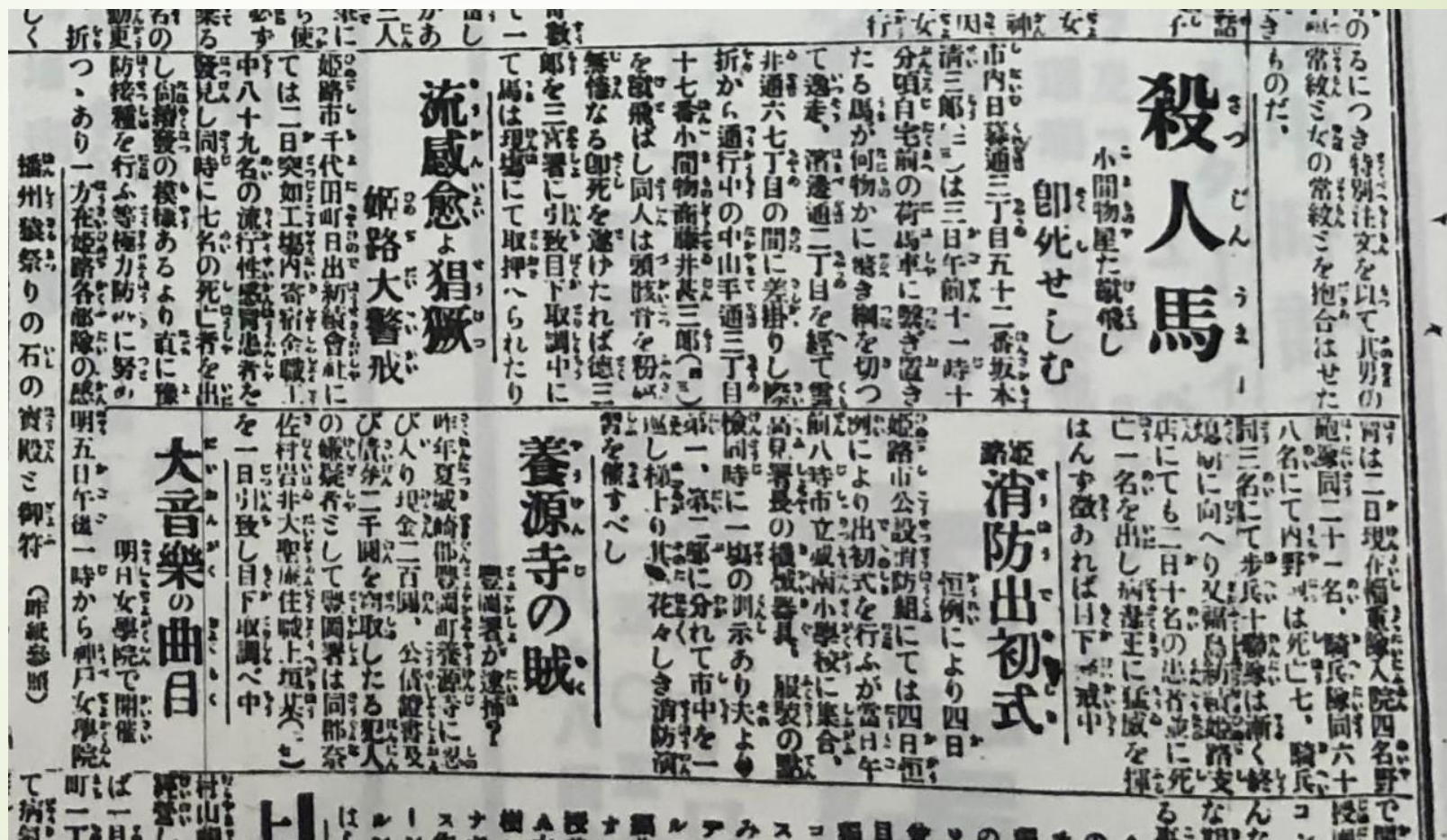
→テレビメディア発達以前は新聞が持つ影響力が強かったと予想し、新聞記事に焦点を当てることにした。

2. 調査について

- ▶ 『神戸又新日報』における流行性感冒とコレラについての記事を比較・検討。
- ▶ 調査対象とした時期は1920年。流行性感冒は1~2月に、コレラは6~9月にかけて流行。
- ▶ 流行性感冒は患者数が多く、コレラは致命率が高いという特徴を持つ。どちらの感染症も1920年以前に流行済み。

3.1 最初の報道 (流行性感冒)

『神戸又新日報』 1920.1.4





3.1 最初の報道（流行性感冒）

- ・ 89名の患者が発見され、7名が死亡したという記事。
- ・ 非常に小規模で、周りの記事に埋もれている印象を受ける。
- ・ 流行3年目のため患者情報は日常の一環となり、年明け行事の報道の方に重きが置かれたのかもしれない。

3.1 最初の報道 (コレラ)

『神戸又新日報』 1920.6.7

港内に疑似虎疫

船夫二名解船内に
発病し一名死亡す
系統は重慶の葦から
海水使用、魚鹽厳禁

港内大警戒

支那 重慶地方、葦藁
程経 て気が悪くなり
突如 當港内解船中に
加藤 組所有帆船賣
右の 如く疑似虎疫の
去月 廿日入港英國ビ
重慶 産の葦を積載せ
屍體 を焼棄し一方病
關係 船なる九組加
關係 船なる九組加

第三波止場は
交通を遮断して
大々的に豫防法實施

吉田藤商事

去月 廿日入港英國ビ
重慶 産の葦を積載せ
屍體 を焼棄し一方病
關係 船なる九組加
關係 船なる九組加



3.1 最初の報道（コレラ）

- ・ 2名の患者が発見されたという記事。大きく報道されている。
- ・ 「大警戒」など強調表現が目立つほか、患者の個人情報など、かなり詳細まで報道しているという特徴がある。
- ・ 注目度の高さがうかがえる一方で、コレラ患者に対する差別的イメージや忌避感に繋がる内容。

3.2 感染症対策（流行性感冒）

①学校（報告書 例2・4）

- ・学校名や欠席率、休校情報など、データに基づく報道。

②予防注射（報告書 例3・5）

- ・記事が多く、分量も多い→注目度が高い話題。

③「細民」（報告書 例1・3）

- ・予防注射等の記事に関連して、流行初期から登場。

3.2 感染症対策（流行性感冒）

③ 「細民」について

- ・ 予防注射等の医学的措置において優遇されている（例3）。
- ・ コレラ患者のような詳細報道や、差別を思わせる報道は見当たらない。
- ・ 医学的対策を実施するにあたって注目すべき対象の1つ。

3.2 感染症対策（コレラ）

①魚類や海水浴を避ける（報告書 例6・7・8）

- ・海水浴と漁猟が禁止されている。記事の大半が海水関係。

②神頼み（報告書 例8）

- ・『コレラ除大明神守護札』が水上署によって配布された。

③食べ物に注意する（報告書 例6・8）

- ・「○○を食って発病」という見出しが多い。

3.2 感染症対策（コレラ）

①～③を通じて

- ・ 個人的かつ世俗的な対策が多い。
- ・ 予防注射など、医療的措置に関する記事はほとんどない。
- ・ 個々人が日常生活において何に注意すれば良いのかを報道。
→最終的には1人1人が注意するしかないという側面が目立つ。

3.3 特徴的な記事（流行性感冒）

○マスクに関する記事

- ・ 1920年1月中旬頃から急増。
- ・ 行政による予防措置に対し、個人ができる対策として正しいマスクの付け方などが報道された。
- ・ マスクの需要増加により、高値になった様子も読み取れる。

3.3 特徴的な記事（コレラ）

○患者逃亡の記事

- ・ 1920年6月末から7月上旬に急増。
- ・ 患者に関する報道と同様、逃亡者や隠蔽協力者に関する詳細情報が報道された。
- ・ 患者が隔離に対する不満を述べた様子がわかる。これらに対する強い忌避感を象徴する記事。

4. おわりに

○流行性感冒

→学校限定で患者数を報道、医学的対策や「細民」報道


- ・患者数が多すぎるので、具体的対策の方が求められた。
- ・「予防注射などで正しく対処すればなんとかなる病気」というイメージ

4. おわりに

○コレラ

→患者に関する詳細報道、世俗的対策、逃亡記事

- ・「一度感染すれば終わり」という死のイメージと結びつく。
- ・感染しないこと自体が重要で、そのためには感染の危険を持つ患者についての情報や、海水・食べ物への注意に需要があった。
- ・コレラへの忌避感と、コレラ患者に対する差別的感情



ご清聴ありがとうございました。

